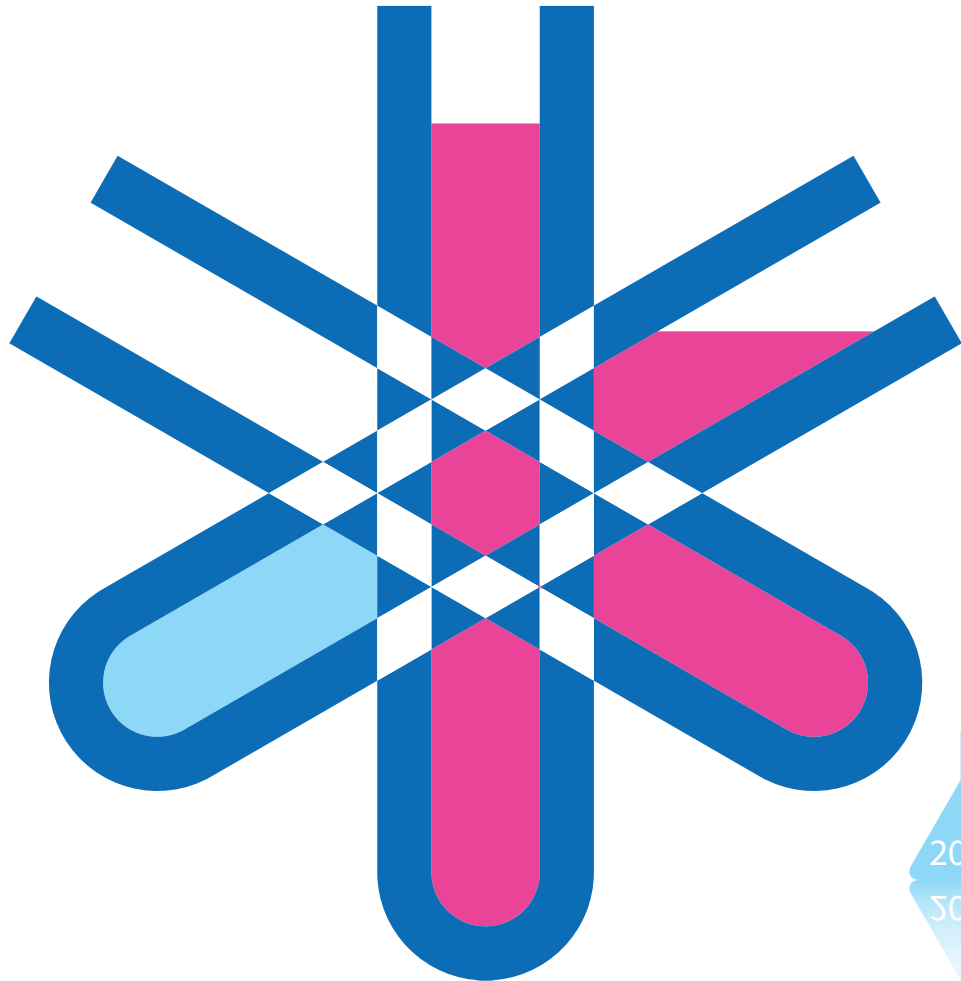


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和元年11月号 目次

【検査結果】

食品中の動物用医薬品検査結果(令和元年9月)	1
農産物の残留農薬検査結果(令和元年8月～10月)	2
器具及び容器包装の規格試験の検査結果(令和元年度)	4

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 10月	6
-----------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	11
---------------------	----

食品中の動物用医薬品検査結果(令和元年9月)

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和元年9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

鶏の筋肉8検体及び鳩の筋肉2検体の計10検体について検査を行いました。その結果、表に示すとおり9検体は全ての検査項目で不検出でしたが、鳩の筋肉1検体から「オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和」を0.39ppm検出しました(基準値:0.2ppm)。この製品は輸入食品(原産国:フランス)で、輸入業者による製品の自主回収が行われました。

表 検査項目、検査結果及び検出限界(令和元年9月)

検査項目	検査結果		検出限界
	鶏の筋肉 (8検体)	鳩の筋肉 (2検体)	
【合成抗菌剤】			
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシン	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシン	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】			
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン 及びテトラサイクリンの和	N.D.	0.39(1検体) N.D.(1検体)	0.02
【内寄生虫用剤】			
フルベンダゾール	N.D.	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

農産物の残留農薬検査結果(令和元年8月～10月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和元年8月～10月上旬に健康福祉局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した農産物の検査結果を報告します。

・市内産農産物

8月に収去された、なす(4検体)、日本なし、ぶどう(各2検体)及びじゃがいも(1検体)の計9検体、9月に収去された、こまつな(5検体)、なす(3検体)、さつまいも、とうがん(各2検体)、きゅうり及びじゃがいも(各1検体)の計14検体、10月上旬に収去された、さつまいも、じゃがいも、とうがん(各2検体)、キャベツ、きゅうり、こまつな及びさといも(各1検体)の計10検体、合計33検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。こまつな、日本なし及びぶどう各2検体、きゅうり1検体から延べ13項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(令和元年8月～10月上旬)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
キャベツ	横浜市	1	0			
きゅうり	横浜市	2	1	* クロチアニジン	0.02	2
				* プロフェジン	0.03	1
こまつな	横浜市	6	2	シペルメトリン	0.07	5.0
				メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	1
さつまいも	横浜市	4	0			
さといも	横浜市	1	0			
じゃがいも	横浜市	4	0			
とうがん	横浜市	4	0			
なす	横浜市	7	0			
日本なし	横浜市	2	2	* チアメキサム	0.03	1
				* ボスカリド	0.04	3
				* クレソキシムメチル	0.01	5
				* チアメキサム	0.08	1
				* テブコナゾール	0.02	5
ぶどう	横浜市	2	2	イミダクロプリド	0.03	3
				* ファモキサドン	0.15	2
				* ペルメトリン	0.19	5.0
				メタラキシル及びメフェノキサム	0.04	1

*中括弧({})は同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
BHC(α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○	—	○	○	イソキサチオン	0.01	—	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和)	0.005	○	○	○	○	イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	—	○	○	エンドリン	0.005	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
オキサミル	0.01	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	—	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	—	フェントロチオン	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	—	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	—
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	—	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	—	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	フルフェノクソン	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
ジメエート	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
ジメモルフ	0.01	○	○	○	—	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	—	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エボキシドを含む)	0.005	○	—	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	—	ボスカリド	0.01	○	○	—	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	—
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	—	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○

A:こまつな B:キャベツ、きゅうり、とうがん、なす C:さつまいも、さといも、じゃがいも D:日本なし、ぶどう

○:実施、—:実施せず

DDT: p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT 及び p,p' -DDT の和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

器具及び容器包装の規格試験の検査結果(令和元年度)

食器や調理器具、包装材などは、食品と直接接触して使用されることから、一部が剥離又は化学物質が溶出して食品が汚染される可能性があります。そのため食品に接する器具及び容器包装の安全性については食品衛生法により規格が設定されており、適合している必要があります。

令和元年5月及び9月に健康福祉局食品専門監視班が市内で収去した食器等30検体について、器具及び容器包装の規格試験を行いました(表1)。検査の結果、すべての検体が規格に適合していました。

表1 器具及び容器包装の規格試験の検体数と項目数(令和元年度)

材質	検体	検体数	検査項目数	検査項目									
				一般	材質試験			溶出試験					
				着色料	カドミウム	鉛	重金属	過マンガン酸カリウム消費量	フェノール	ホルムアルデヒド	蒸発残留物	ゲルマニウム	アンチモン
メラミン樹脂	皿等の食器	3	21	3	3	3	3	0	3	3	3	0	0
ポリエチレン樹脂	保存容器、手袋等	10	60	10	10	10	10	10	0	0	10	0	0
ポリエチレンテレフタレート樹脂	コップ等	5	40	5	5	5	5	5	0	0	5	5	5
ポリプロピレン樹脂	まな板、ストロー等	12	72	12	12	12	12	12	0	0	12	0	0
合計		30	193	30	30	30	30	27	3	3	30	5	5



* 写真は検体の一例です

【規格について】

器具及び容器包装又はこれらの原材料は、許可された着色料以外が溶出しないように規定されています(原材料一般の規格)。また、材質・使用用途別に規格が設定されており、材質試験と溶出試験を実施して評価します。材質試験は検体中に含まれている化学物質、溶出試験は検体から溶け出す化学物質を測定します。参考に、今回検査した材質の規格を示しました(表2)。

表 2 器具若しくは容器包装又はこれらの原材料の材質別規格

種類	項目		規格
一般	着色料		食品衛生法施行規則別表第 1 掲載品目に掲げる着色料以外の化学的合成品たる着色料を含むものであってはならない。ただし、着色料が溶出または浸出して食品に混合するおそれがないように加工されている場合はこの限りではない。
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		蒸発残留物	30 μ g/mL 以下
メラミン樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		フェノール	5 μ g/mL 以下
		ホルムアルデヒド	陰性
ポリエチレンテレフタレート樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		アンチモン	0.05 μ g/mL 以下
		ゲルマニウム	0.1 μ g/mL 以下
蒸発残留物	30 μ g/mL 以下		

【理化学検査研究課 食品添加物担当】

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行が始まりました。
- 麻しんが5件報告されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

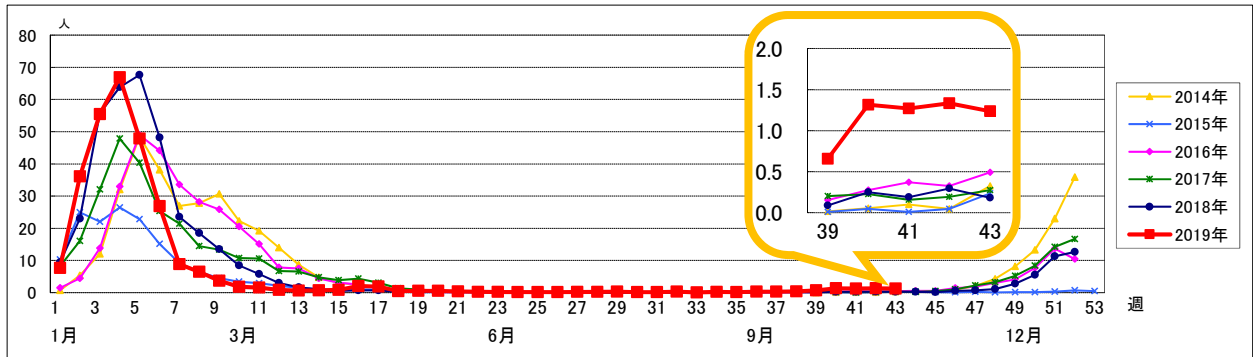
腸管出血性大腸菌感染症	15件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
A型肝炎	3件	侵襲性髄膜炎菌感染症	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	百日咳	16件
急性脳炎	1件	風しん	10件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	麻しん	5件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	5件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が14件(うち2件は無症状病原体保有者)、O26が1件ありました。
- A型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件、感染経路不明の報告が2件ありました。
- デング熱: ネパールの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件ありました。感染経路は国内での同性間性的接触が1件、不明が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 幼児の報告が1件あり、病原体はインフルエンザAでした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が1件、血清群不明の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): AIDSが2件、無症状病原体保有者が3件で、いずれも男性でした。感染経路は、いずれも同性間性的接触でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳以上の報告が3件ありました。
- 侵襲性髄膜炎菌感染症: 50歳代の報告が1件、80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳以上の報告が2件(いずれもワクチン接種不明)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 乳児および20歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。
- 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)がありました。感染地域は国内10件、不明2件で、感染経路は性的接触が11件(異性間9件、同性間1件、詳細不明1件)、不明1件でした。性別は男性9件、女性3件でした。
- 百日咳: 10歳未満が7件(ワクチン接種あり5件、なし1件、不明1件)、10歳代が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、20歳代が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代が1件(ワクチン接種不明)、40歳代が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、50歳代が1件(ワクチン接種不明)、60歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例10件が報告されています。20歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、30歳代3件(ワクチン接種なし2件、不明1件)、40歳代3件(ワクチン接種なし1件、不明2件)、50歳代1件(ワクチン接種不明)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。
- 麻しん: 検査診断例3件、修飾麻しん2件が報告されています。10歳代1件(ワクチン接種あり)、20歳代2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代2件(いずれもワクチン接種あり)でした。

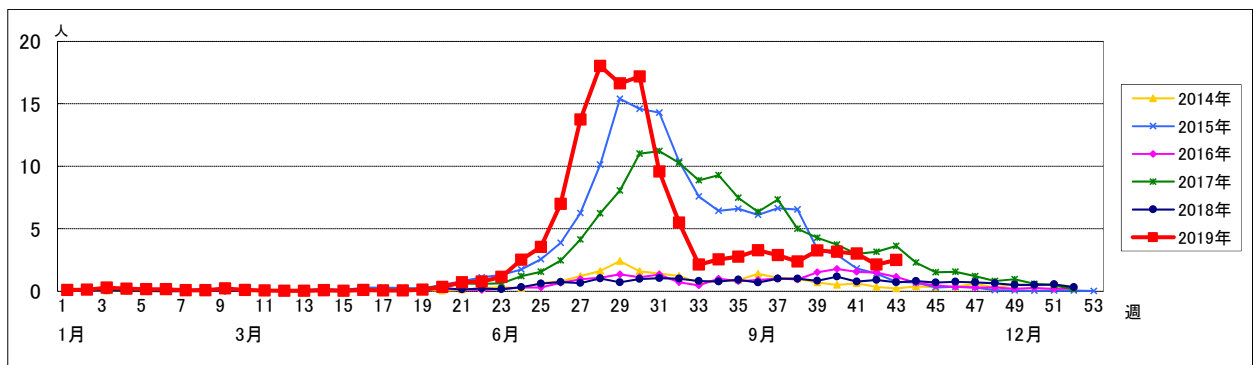
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日
第43週	10月21日～10月27日

1 インフルエンザ: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。第43週は1.24となっています。



2 手足口病: 2019年は0.05から0.10で推移していましたが、第26週にて6.98で流行警報発令基準値(5.00)を上回り、第28週で18.01にて最大値となり、その後は減少し、第43週は2.49となっています。今年は過去に流行した2017年、2015年の同時期を大きく上回って推移しました。報告は少なくなっていますが、依然として流行警報は続いています(警報解除基準:2.00)。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:25件	女性:24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:3件	淋菌感染症	男性:7件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.75	1.75	0.50	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件、内科定点11件、基幹定点5件、眼科定点6件で、定点外医療機関からは3件でした。

11月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離株16例と遺伝子10例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上	下	イン	手	ヒト	そ
	気	気	フル	足	メ	の
	道	道	エン	口	タ	他
	炎	炎	ザ	病	ニ	
					ュー	
					モ	
インフルエンザ AH1pdm09 型			9			1
インフルエンザ AH3 型			1			
パラインフルエンザ 2 型	2					
アデノ 2 型	1					
RS		1				1
ヒトメタニューモ					3	
コクサッキーウイルス A16 型				1		1
コクサッキーウイルス B3 型				1		
パレコウイルス 3 型						1
ライノ	1	2				
合計	3		10	2		1
	1	3			3	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

10月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管毒素原性大腸菌1件、大腸菌3件、サルモネラ属菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、バンコマイシン耐性腸球菌1件、ノカルジア2件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、アクロモバクター1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌9件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌9件、劇症型溶血レンサ球菌5件、侵襲性インフルエンザ菌3件、侵襲性髄膜炎菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からリケッチア1件、保健所からレジオネラ6件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件、呼吸器系病原菌1件、消化器系病原菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	腸管毒素原性大腸菌	1	O169 ST1a (1)	
	大腸菌	3	O25 (2)、O153 (1)	
	サルモネラ属菌	3	<i>Salmonella</i> Eastbourne (2)、 <i>Salmonella</i> Enteritidis (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> (2)、 <i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (2)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanB</i> (1)	
	ノカルジア	2	<i>Nocardia asiatica</i> (1)、 <i>Streptomyces</i> 属 (1)	
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
		アクロモバクター	1	<i>Achromobacter xylosoxidans</i> (1)
	保健所	腸管出血性大腸菌	9	O157:H7 VT1 VT2 (4)、 O157:H7 VT2 (2)、 O157:H- VT2 (1)、O157 VT2 (1)、 O26:H11 VT1 (1)、
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	9	<i>Enterobacter cloacae</i> (5)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)、 <i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (2)
劇症型溶血レンサ球菌		5	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264 (4)、 G 群溶血性レンサ球菌 (1)	
侵襲性インフルエンザ菌		3	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (3)	
侵襲性髄膜炎菌		2	<i>Neisseria meningitidis</i> W 群 ST-11 (1)、 B 群 ST-687 (1)	

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 定点	リケッチア	全血	1	不検出 (nested PCR) (1)
保健所	レジオネラ	喀痰	6	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)、 不検出 (2)、検査中 (2)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A 群溶血性レンサ球菌	3	T4 (1)、T12 (1)、不検出 (1)
	呼吸器系病原菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1 産生、 PVL 産生 (1)
	消化器系病原菌	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和元年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。平成31年3月26日より、新しいホームページへの移行に伴い、URLの変更が行われ、平成31年4月以降のアクセス件数は、新しいホームページでの集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和元年10月の総アクセス数は、347,507件でした。前月に比べ約69%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*173.7%、保健情報11.5%、検査情報月報4.1%、生活環境衛生2.1%、食品衛生2.0%、薬事1.8%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

10月のアクセス順位(表1)

を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「大麻(マリファナ)について」、3位は、「インフルエンザワクチンについて」でした。また、10位には、「マイコプラズマ肺炎について」が入っています。

表1 令和元年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	78,173
2	大麻(マリファナ)について	11,226
3	インフルエンザワクチンについて	5,772
4	EBウイルスと伝染性単核症について	5,203
5	衛生研究所トップページ	4,615
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,287
7	トキソプラズマ症について	4,165
8	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	3,468
9	ぎょう虫(蟻虫)症について	2,950
10	マイコプラズマ肺炎について	2,890

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

「インフルエンザワクチンについて」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/a/influvaccine.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和元年10月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和元年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
予防接種について	1

2 追加・更新記事

令和元年10月に追加・更新した主な記事は、17件でした(表3)。

表3 令和元年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 1日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版)	更新
	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
10月 3日	横浜市麻しん流行情報8号	掲載
10月 7日	熱中症情報2019	掲載
10月 8日	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
	マラリアについて	更新
10月10日	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載
	ケニアのこどもの定期予防接種について	更新
10月11日	ガーナのこどもの定期予防接種について	更新
10月16日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版)	更新
10月17日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載
10月24日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
10月25日	2019(令和元)年度のインフルエンザワクチンについて	更新
10月29日	インフルエンザウイルスのインフルエンザ治療薬(抗ウイルス剤)に対する耐性について	更新
10月31日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
	横浜市風しん流行情報25号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】